

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大 学 名	長崎大学
整理番号	A②-8
事 業 名	日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 <b style="font-size: 2em;">A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント 本事業は、我が国を含めたアジア全体で大きな問題となりつつある、インフラストラクチャーの維持、管理に関する課題を解決する人材を、長崎大学、中国・山東大学及び韓国・成均館大学校とが連携して育成することを目的としている。 事業の推進においては、平成23年から5年間進めてきた本事業のキャンパス・アジアパイロットプログラムである「日中韓の大学間連携による水環境技術者育成」事業の経験を踏まえ、緻密な大学間交流の実施体制を取っている。 補助期間中に本事業の担当者会議を、オンライン3回を含めて15回開催し、交流プログラム、単位互換制度、ダブルディグリーと、それぞれの課題ごとに部会を設けて、制度の整備を進めた結果、極めて限られた専門分野での交流にも関わらず、延べ224名の学生が本交流事業に参加している。具体的には、短期サマースクール、単位互換制度に基づいた短期留学、ダブル・ディグリープログラムという多様な方法で交流が行われた。また、共通科目として延べ27コマの講義が開講され、3大学間で教員の相互派遣を行いながら質の高い教育が進められたこと等、全体として高く評価できる。外国人留学生に対するサポートとして専任の国際コーディネーターが、勉強と生活の両面で支援するとともに、産業界の協力も得て、企業体験の機会提供や、派遣講師による実学の講義も進められた。また、日本人留学生のサポートシステムも、国際コーディネーターがビザの取得手続きや渡航前オリエンテーションを行うといったきめ細やかな配慮がなされており、国際交流のための環境整備が十分になされている。更に、交流範囲を広げ、ASEAN諸国の大学との連携も含めた「国際コラボレーションラボ」の設立が準備され、インフラ整備分野における新たな人材育成が進められる予定になっており、今後のプログラムの展開に期待が持てる。 一方で、課題である派遣学生の語学力向上に関しては、英語による受講可能科目の大幅増化、留学前の語学研修、その他実践的な英語教育の導入が行われたものの、国際交流においての必須項目に留まっている。職員の英語力向上も含め、今後更なる取組の展開に期待したい。 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	